

市長と語る

「オープンミーティング」

平成29年7月

加古川市

「オープンミーティング」とは



- 市民の方の意識やニーズを把握
- 施策や事業など市政の参考

今回の「オープンミーティング」の目的

- 市長と子育て世代の方が直接対話し、この地域特有の状況について、
 - ⇒ 保護者の率直な意見をお聞かせいただく
 - ⇒ 教育に係る保護者の意識やニーズを把握する
 - ⇒ 教育に係る施策や事業など市政の参考にする

「両荘地区、志方地区」の学級数について

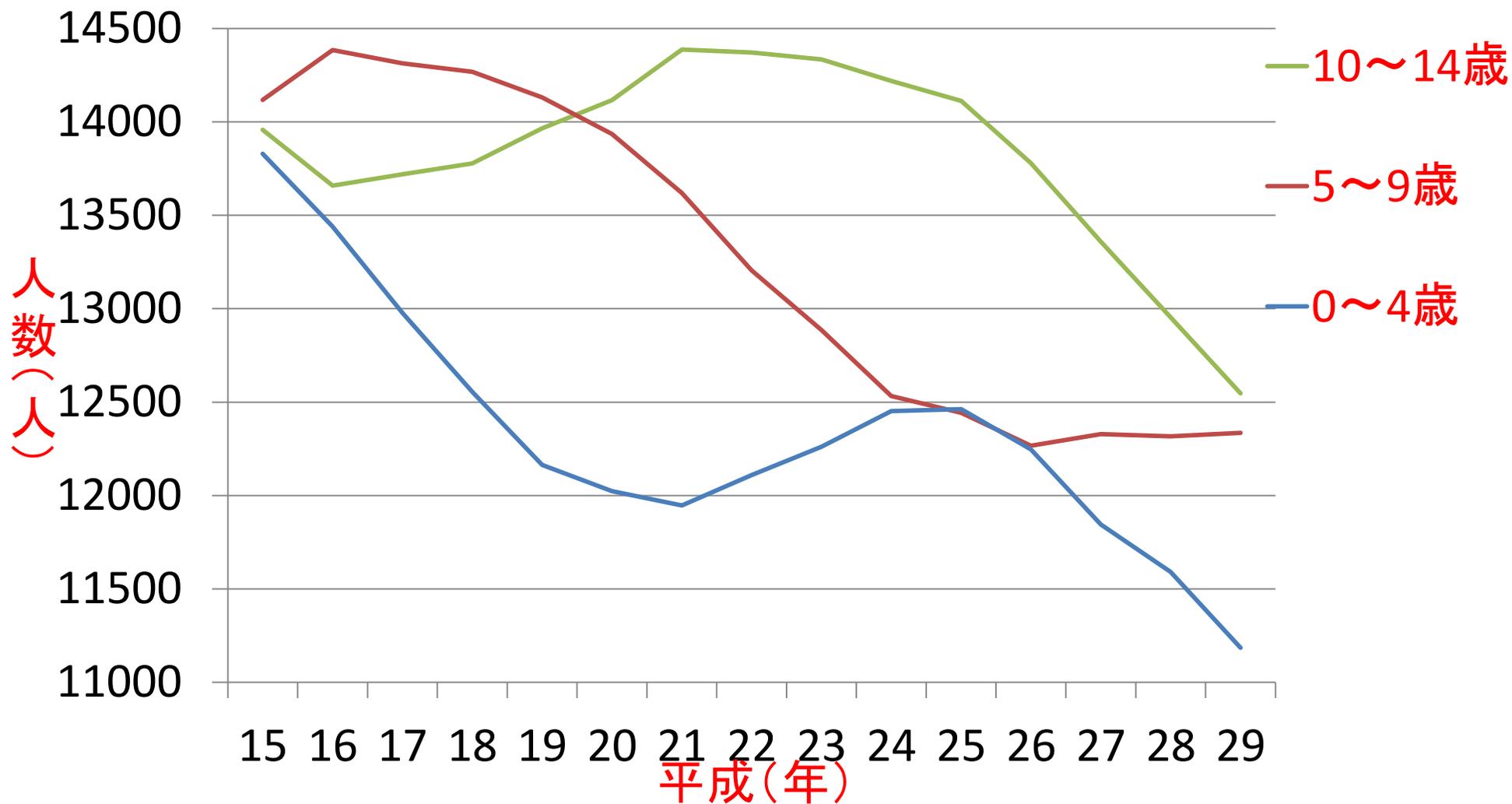
- ・ 全ての小学校（5校）において、1学年1学級の状態。
- ・ 平成34年度までの推計でも、大幅な学級数の増は見込めない。

【文部科学省の考え方】

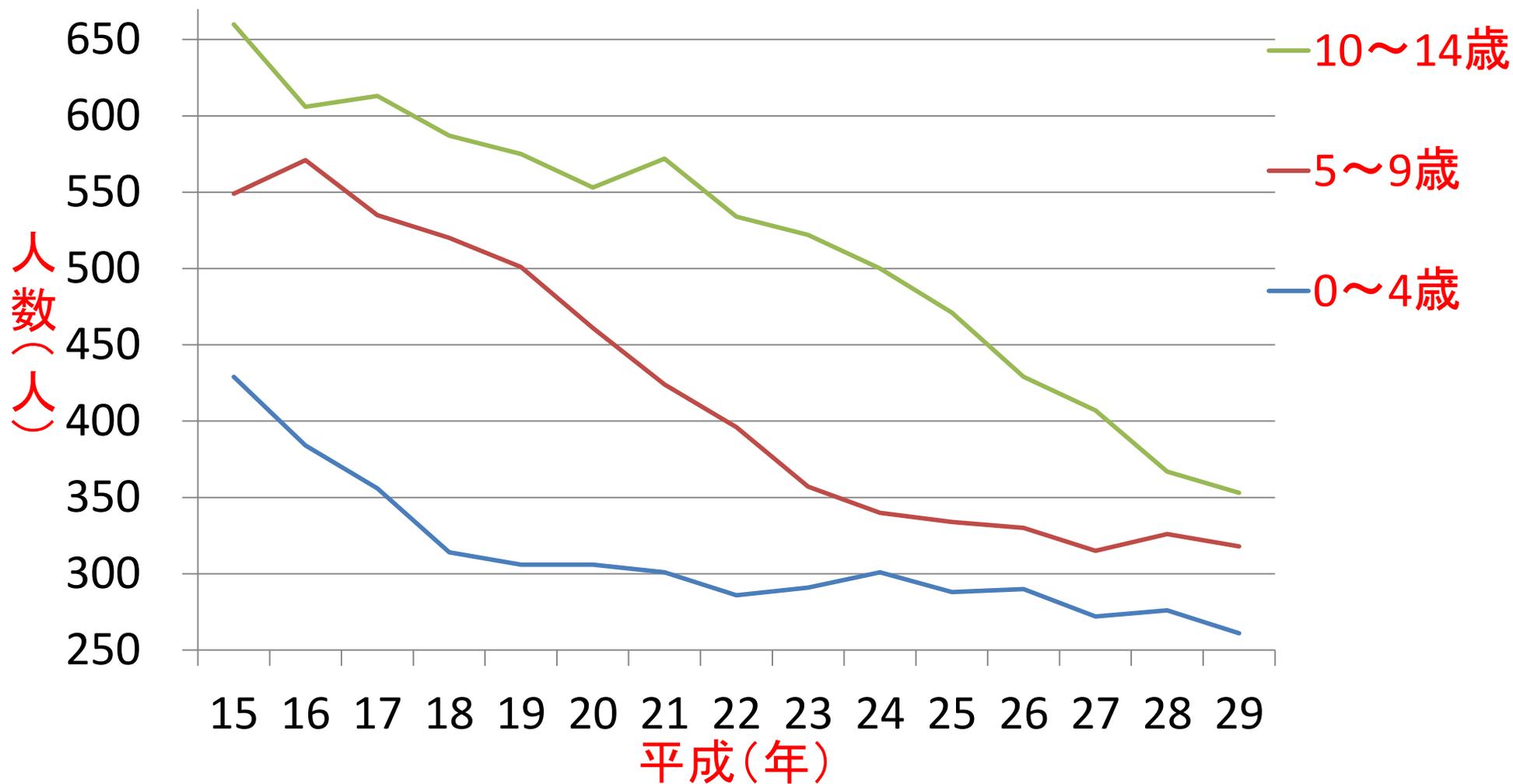
全学年でクラス替えを可能としたり、学習活動の特質に応じて学級を超えた集団を編成したり、同学年に複数教員を配置したりするためには、1学年2学級以上あることが望ましい。



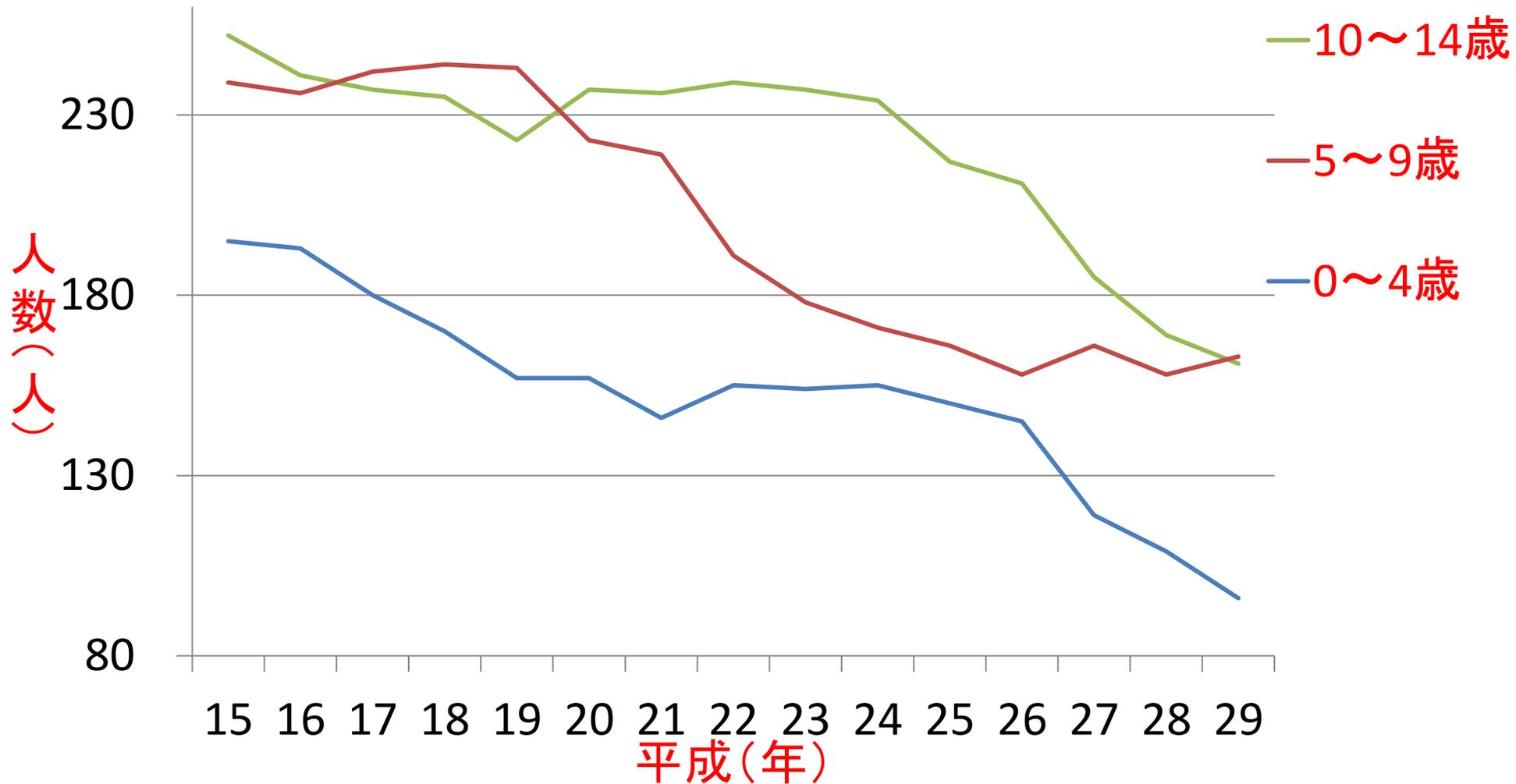
「市内全域」年齢別（5歳階級）人口推移



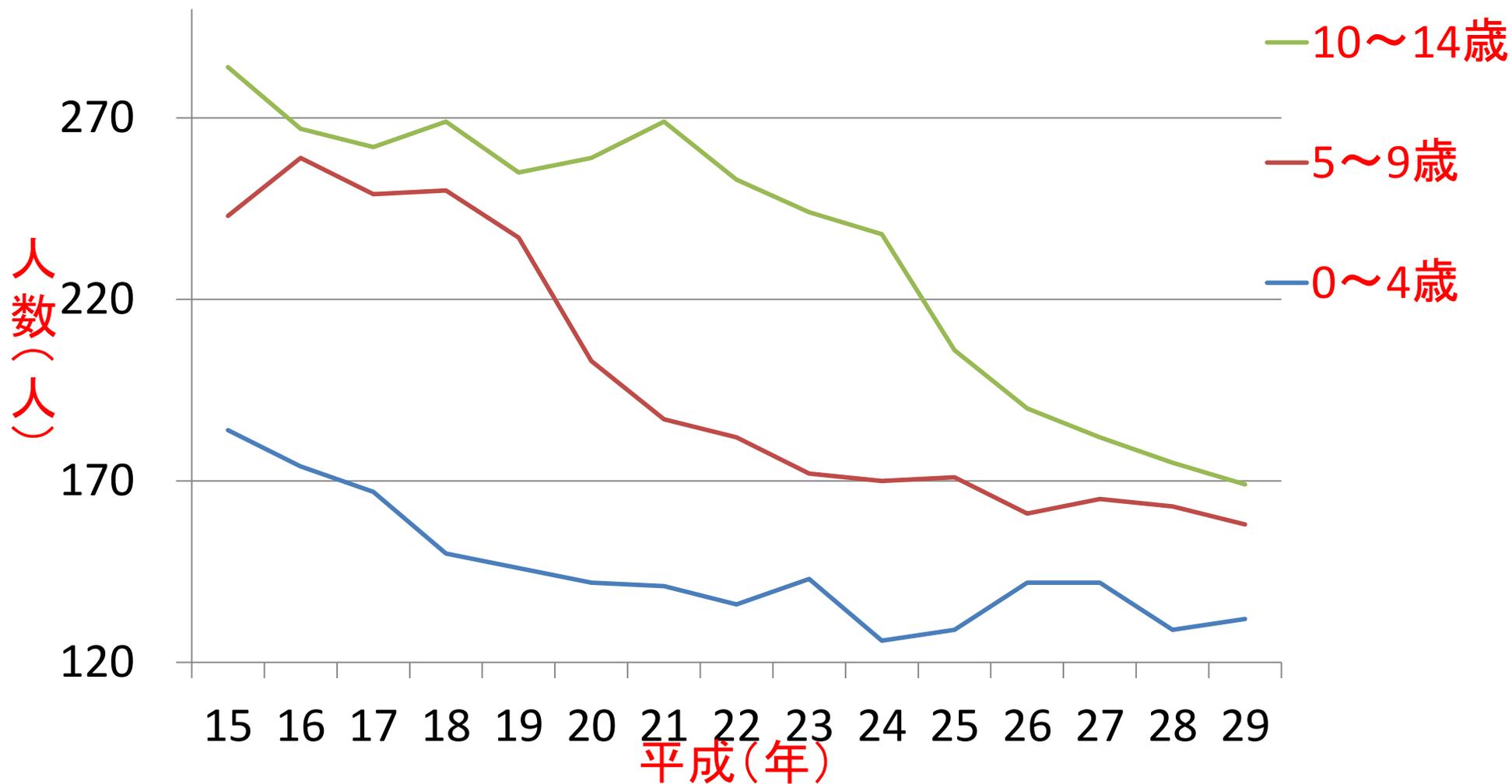
「志方町」年齡別（5歲階級）人口



「平荘町」年齢別（5歳階級）人口



「上莊町」年齡別（5歲階級）人口



～子どもたちの

教育環境のあり方～

加古川市の子どもたちに係る施策

子育て世代包括
支援センター

待機児童対策

見守りカメラ・
見守りサービス
児童クラブの充実
メンタル
サポーターの配置



妊産婦期



幼少期



小学期



中学期

スクールソーシャルワーカーの配置

ALTの拡充

乳幼児医療費等の助成拡大

ユニット12の推進

小規模校の主な「メリット・デメリット」

メリット

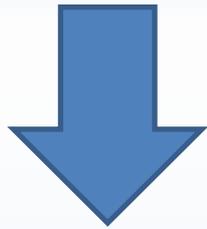
- ✓ きめ細かい指導が可能
- ✓ 施設・設備面での充足
- ✓ 発表の機会、様々な活動における出番等を得やすい
- ✓ その他

デメリット

- ✓ 人間関係の固定化(クラス替えが困難)
- ✓ 集団で切磋琢磨する機会が得られにくい
- ✓ クラブ活動等の種類が減少
- ✓ 集団活動・行事などの制約
- ✓ その他

「より良い教育環境」にするために

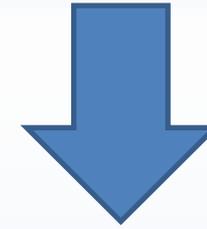
現状の規模を維持



学校・教育内容の

魅力を高める

学校の統合等



規模を拡大する

「学校・教育内容の魅力をも高める」事例

小規模特認校制度(神戸市立六甲山小学校)



校区制度を前提としながらも、広く市内全域から入学・転学を認めることにより、豊かな自然環境を生かした取組を行うなど、特色ある教育活動を行っている。

「学校・教育内容の魅力をも高める」事例

学校支援・地域との交流（加古川市）



環境体験授業の一環として、地域の方が子どもたちに脱穀体験の機会を提供
(ユニット12の取組の一例)

「規模を拡大する」事例

3小学校統合(多可町立八千代小学校)

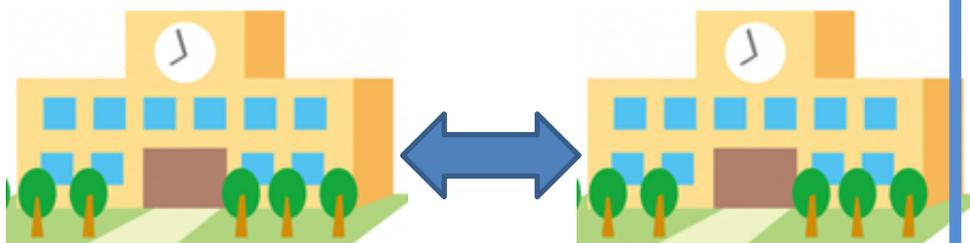
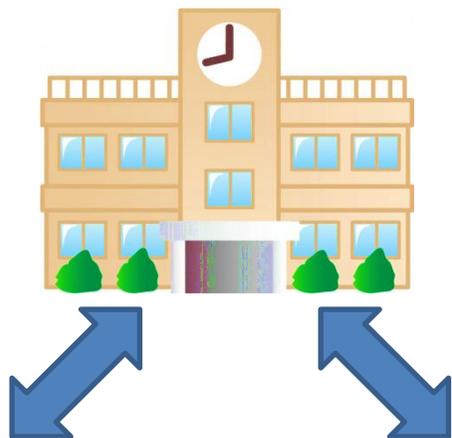


学校の小規模化により、人間関係の固定化や集団活動への影響が懸念される現状を踏まえ、3小学校を統合し、多くの子どもたちの学びあえる環境の実現が可能となった。

「規模を拡大する」事例（小中一貫教育）

施設分離型 小中一貫校

中学校



小学校

小学校

施設一体型 小中一貫校

小学校・中学校



「規模を拡大する」事例(学校統合と小中一貫教育)

大阪府池田市(ほそごう学園)

細河中学校



施設一体型小中一貫校
「ほそごう学園」
(細郷小学校・細郷中学校)

細河小学校

統合

伏尾台小学校